

(様式 1)

大阪市立大空小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校は「すべての子どもの学習権を保障する学校をつくる」を学校の理念に掲げ、教職員・保護者・地域が一体となって、4つの力（人を大切にする力・自分の考えを持つ力・自分を表現する力・チャレンジする力）の育成に取り組んできた。その中で年3回のコンサート、ペア学年道徳・全校道徳の実施、保護者や地域の方とともに授業をつくる「オープン講座」等の特色ある教育の実践を積み重ねてきた。

一方、全市的な取組である標準授業時数の上限設定に伴う授業時数の適正化や総合的読解力育成カリキュラムの本格実施等、「学校園における働き方改革推進プラン」や「中小学生からのリベラル・アーツ教育（情報を読み取る・考えを形成する・考えを交流する・考えを表現する）」の推進にも取り組んでいく必要がある。

そこで、令和6年度に「カリキュラムマネジメント検討委員会」を設置し、教育課程の見直し、学校行事等の精選、新たな校内組織体制の構築等について検討を重ね、学校協議会でご意見をいただきながら、令和7年度より2学期制を導入し、コンサートの発展的縮小と作品展の実施等を進めていく。また、令和6年度の「運営に関する計画・自己評価」の最終評価での総括を受けて、本年度は特に以下の4点を最重要項目として注力しながら取り組んでいく。

1. 自己肯定感を高めること
2. 基礎学力につけること
3. わかりやすく、楽しいと思える授業をつくること
4. 主体的・対話的で深い学びの形成とICTの効果的な活用を推進すること

本年度もこれまでと同様、校区外または他都市からインクルーシブな教育環境を求めて、支援が必要な児童や学校へ通いづらい子ども等の転入が後を絶たない状況がある。他の地域から本校に通いたいと思う児童・保護者が増えることは本校の取組の成果と言えるが、一方、支援を必要とする児童の比率が全体の27.9%と非常に高い。また、居住地の子どもが他校を選択するケースが年々増加しており、児童数の減少が大きな課題であるが、上記4点に取り組んだ成果を地域や保護者と連携しながら広く周知する等、課題の解消に向け取り組んでいく。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和7年度の小学校学力経年調査における「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を80.0%以上にする。
- 毎年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度末より減少させる。
- 毎年度末の校内調査において、前年度末の不登校児童の改善の割合を増加させる。
- 令和7年度の小学校学力経年調査の「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70.0%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 令和7年度の小学校学力経年調査の「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合を39.5%以上にする。
- 令和7年度の小学校学力経年調査における国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も0.01p向上させる。
- 令和7年度の小学校学力経年調査における算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も0.01p向上させる。
- 令和7年度の小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を87.0%以上にする。
- 令和7年度の小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を77.0%以上にする。
- 令和7年度の小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的に回答する児童の割合を68.0%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 令和7年度末の校内調査より、授業日において児童の8割以上が学習者端末を活用した日数が、年間授業日の50.0%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕
- 令和7年度の第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を65%以上にする。

【その他】

- 令和7年度の「子どもアンケート」で、「『いのちを守る学習』を通して、自分の命は自分が守る力がついている」に対して、最も肯定的な「そのとおりだと思う」と回答する児童の割合を65.0%以上にする。
- 令和7年度の「子どもアンケート」で、「人を大切にする力がついている」に対して、最も肯定的な「そのとおりだと思う」と回答する児童の割合を50.0%以上にする。
- 令和7年度の「保護者アンケート」（学校評価・外部アンケート）で、「自分はサポートの一員として、大空小をつくっている。」に対して、肯定的に回答する保護者の割合を50.0%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- 小学校学力経年調査における「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を 80.0%以上にする。
- 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度末より減少させる。
- 年度末の校内調査において、前年度末の不登校児童の改善の割合を増加させる。
- 小学校学力経年調査の「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 70.0%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査の「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合を 39.5%以上にする。
- 小学校学力経年調査における国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も 0.01p 向上させる。
- 小学校学力経年調査における算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も 0.01p 向上させる。
- 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 87.0%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 77.0%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的に回答する児童の割合を 68.0%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において児童の 8 割以上が学習者端末を活用した日数が、年間授業日の 50.0% 以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く〕
- 第 2 期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 1 を満たす教職員の割合を 65.0%以上にする。

【その他】

- 「子どもアンケート」で、「『いのちを守る学習』を通して、自分の命は自分が守る力がついている」に対して、最も肯定的な「そのとおりだと思う」と回答する児童の割合を 65.0%以上にする。
- 「子どもアンケート」で、「人を大切にする力がついている」に対して、最も肯定的な「そのとおりだと思う」と回答する児童の割合を 50.0%以上にする。
- 「保護者アンケート」（学校評価・外部アンケート）で、「自分はサポートの一員として、大空小をつくっている。」に対して、肯定的に回答する保護者の割合を 50.0% 以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括